



2020 年 1 月 15 日 (水) 17:00~18:30

先端酵素学研究所
藤井節郎記念ホール

組織微小環境が生みだす 腫瘍血管形成のダイナミズム

大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野

木戸屋 浩康 博士

組織の隅々にまで張り巡らされた血管ネットワークは、酸素や栄養分を供給することで生体の成長と恒常性の維持に働いている。この血管の役割は腫瘍組織でも同様であり、そのために腫瘍血管を標的とすることで間接的に腫瘍増殖を抑制する治療法の開発が進められてきた。しかしながら、腫瘍血管抑制剤は期待に反して際だった癌治療効果を示すことができていない。では、腫瘍血管を標的とした癌治療という概念は誤りなのであろうか？この問いの答えを得るための最も単純で確実な方法は、腫瘍血管を直接「観る」ことである。我々は腫瘍組織の生体内イメージング系を構築し、腫瘍血管阻害剤の投与による影響の解析を進めた。その結果として観察された腫瘍血管の姿は、予想を超えたダイナミクスを示していた。その中でも、「血管束移動」と名付けた既定の概念には当てはまらない新規の血管リモデリング機構は、腫瘍血管阻害剤に対する治療抵抗性に関与する可能性が示されつつある。本セミナーでは、生体内で進行する腫瘍血管形成の真実について既成概念との相違点を含めて解説し、次世代の腫瘍血管阻療法ビジョンを描きたい。

教職員、大学院生、学部学生等、興味を持つ全ての方のご来聴を歓迎致します

お問合せ先： 発生物学分野 竹本龍也 (内線 7915)

takemoto.tatsuya@tokushima-u.ac.jp

主催：徳島大学先端酵素学研究所

共催：文部科学省共同利用・共同研究拠点事業